

気候変動の影響

「流域治水」の本格的実践

水災害リスクを踏まえたまちづくり等の流域治水関連法を活用した取組、国土強靱化に資するあらゆる関係者が協働して行う「流域治水」の考え方にに基づき現場レベルで本格的に実践。

将来の気候変動を見込んだ更なる対応

気候変動の影響による水災害の頻発化・激甚化に対応するため、堤防・遊水地等の河川整備やダム建設、雨水貯留浸透施設の整備などに加え、**水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等の促進に向けた検討など**、あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」を推進し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を実施。

水害リスクの「見える化」が必要

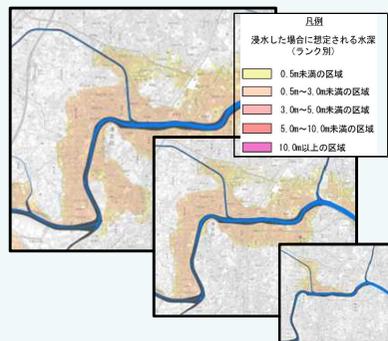
水害リスク情報の充実

多段階の浸水想定図・水害リスクマップ（浸水頻度図）の整備

従来の想定最大規模降雨の洪水で想定される洪水浸水想定区域図に基づく水害ハザードマップに加えて、より発生頻度の高い降雨による浸水範囲、浸水頻度、浸水深の関係をわかりやすく図示した「**多段階の浸水想定図**」、「**水害リスクマップ（浸水頻度図）**」を新たに整備・公表することにより、流域における河川整備の必要性や事業効果の理解を促すとともに、防災・減災のための自治体の土地利用検討や企業BCPへの反映による浸水被害の低減を推進。

多段階の浸水想定図

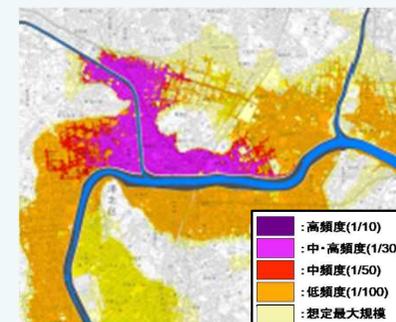
- 従来の洪水浸水想定区域図（想定最大規模降雨）に加えて、高頻度～中頻度で発生する降雨規模毎（1/10、1/30、1/50等）に作成した浸水想定図。
- 河川整備の状況に応じて、現況（R2末時点）、短期（R9年度末）等で公表。
- ※短期、中長期は今後公表予定
- 今回公表する図は、直轄区間からの外水氾濫のみを対象。



図のイメージ

水害リスクマップ（浸水頻度図）

- 多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0cm以上、50cm以上、3m以上）に重ね合わせて作成した図面。
- 多段階の浸水想定図と同様に、河川整備の状況に応じて、現況（R2末時点）、短期（R9年度末）等で公表。
- ※短期、中長期は今後公表予定
- 今回公表する図は、直轄区間からの外水氾濫のみを対象。



図のイメージ